



「奥浅草だより」第31号 2020年6月30日

コロナの足跡 吉原と山谷

2020年7月 東京の浅草も、時を追って人が集まってきています。雷門の人出はその象徴ですが、観音裏と言われるその北側はどうでしょうか。近年の東京集中の影響で、台東区の人口は増えています。けれど、商業人口というより、居住者が増えているのです。自粛が緩んできた今、浅草の北側にあたる歴史の街、吉原と山谷は健在でしょうか。

ソーランド街 台東区千束のソーランド街は、吉原の跡地にあり、日本で最大。約150軒の店があります。建物が存続する限り、営業を続けられることになっています。ここは、一口にいうと健在です。コロナ期を経て、2-3軒、廃業した店があるそうですが、街の様子は変わっていません。ここへ来る客は送迎タクシーが多いですが、タクシーの稼ぎどころではないでしょうか。また、夜のネオンは相変わらず華やかです。もちろん、午前零時までの営業です。

元労働者の街・山谷 吉原と土手通りを隔てた山谷地区は、ドヤ街と言われた山谷地区ですが、その後、冷暖房TVつき個室の簡易宿泊所とバックパッカーの簡易ホテルの街となりました。ここは、高齢化で沈滞していたところ、コロナ禍の影響をまろに受け、日雇労働の失業者が増えているはず。ですが道行く人陰もあまりありません。山谷住人の足である自転車も減っています。そして街の様子は一変し、商店街はほとんどシャッターが下りたまま。アーケードをはずした「いろは商店街」は、見る影もありません。シャッターは減り、建物が住宅に変わるなど。コロナで炊き出しが減った、ホームレスの人たちに特別定額給付金はわたっているのでしょうか。台東区の対応は柔軟だといいます。街頭の人影が減ったことがその証左ならいいのですが。

~~~~~  
この浅草だよりは『奥浅草 地図から消えた吉原と山谷』の発行後、話題を拾って不定期に発行しています。

サノックスのホームページでもご覧いただけます。<http://www.sanox.co.jp>

佐野陽子・江原晴郎・森下恒子